企画展「お国めぐり　姉様人形展」

令和7年3月1日（土）～3月20日（木祝）

【開催趣旨】

このたび、人形作家の亘（わたる）正幸氏が所蔵されていた貴重な姉様人形のコレクションを当館へ寄贈していただくことになった。鳥取のきびがら姉様をはじめ、今は作られていない日本各地の貴重な作品に加え、亘氏と近年の姉様人形作家の作品など、東北から九州までの姉様が当館に集った。日本における人形玩具史、遊戯史の一資料として、大事に活用していきたい。

亘様にはこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

【展示資料（概要）】　（わらべ館所蔵。※印除く）

地域	資料名	産地	制作	備考
	江戸姉様	―	亘正幸	武藤江戸姉様の系統
	縮緬の小姉様	―	亘正幸	縮緬の着物
東北	串姉コ	秋田県横手市	樋渡人形店	串に紅白の紙をらせん状に巻き付ける
	庄内姉様※	山形県鶴岡市	庄内姉様人形保存会	「鶴岡姉様」とも。髪は新聞紙を皺加工し、膠（現在はカシュー）で塗り固める。
	会津の姉様	福島県会津若松市	不明	着物が裾まであり串が隠れる珍しい型
関東	千葉の姉様	千葉県	不明	顔を描いた紙を貼り付けてあるのが特徴。昭和中期か
	江戸姉様（武藤江戸姉様）	東京都	（武藤チカ創始）	さまざまな髪型が特徴。ライフステージや身分、年齢に合わせて再現が忠実
中部	松本の姉様	長野県松本市	松本姉様保存会 丸山八十	「昭和48（1973）年盛夏」
	松本姉様	長野県松本市	ベラミ人形店	松本市のベラミ人形店が復刻。前掛けが特徴
	しずおか姉さま	静岡県静岡市	曽根ます	江戸姉様に近い。髪型を見せるため後ろ向きに飾られる
関西	段だら姉様	和歌山県	不明	白紙の頭のみ。首から下の棒に螺旋状に紅白模様を巻き付ける
	ぼんちこさん※	兵庫県姫路市	井上ため子	商品化されず、各家庭で相違あり
中四国	因幡あねさま	鳥取県鳥取市	吉村秋香	細長い姿。顔を描く
	きびがら姉さま	鳥取県鳥取市	柳屋（田中利子）	トウモロコシの皮を利用。頭部のみ
	松江の姉さま	島根県松江市	松崎昭子	三人娘のそれぞれ髪型が異なる
	さぬき姉さま人形	香川県	三苗	半紙1枚で頭髪と身体（胴）を作る
	土佐のあねさま	高知県	土佐民芸社	顔は土製。人形作家山本香泉作の復刻
九州	遠賀の姉様	福岡県遠賀郡	加藤シゲノ	京都のさくら井屋の千代紙を用いる。流し目のような独特の表情
	阿蘇のとうきび人形	熊本県	迫（はざま）しづえ	トウモロコシの皮だけでなく芯も体幹に使う
	宇土の五人姉様	熊本県宇土市	坂本カツ	五体が扇状に括られているが、売るときは一体ずつ買える
その他	古今百風吾妻余波		岡本昆石　編 鮮斎永濯　画	明治18（1885）年刊行。英語圏に向けた日本の風俗紹介。姉様遊び
	童心帖		板愈良（祐生）	出雲の姉様（ばんばさま）、松山姉様を紹介

【亘　正幸氏】

亘正幸氏は1940（昭和15）年生まれ、大阪府出身の人形作家である。幼少期から細かな手仕事を得意とし、長年にわたり、紙や布を用いた「お細工物」をこしらえている。大阪の大手百貨店を定年退職後は「麻の葉工房」を開き、縫いつまみや組み編みなどの和布を使った小物や姉様人形などの制作と指導を行っている。

また、自身の制作のかたわら、各地の姉様づくりの現場も訪ね、作り手と交流し、古い人形も集めておられる。

著作:『はじめての縫いつまみと組編み』パッチワーク通信社、『和布のお細工もの』誠文堂新光社、『うつくしいなつかしい姉様』亥辰舎、『いつまでもつたえたい姉様』亥辰舎など多数

【姉様人形】

「姉様人形」は、主に紙(一部に布や土)を用いて作られた女性を模した人形である。弥生の節句に飾られる雛人形と異なり、常に遊ばれる存在として、こどもの側にあった。『源氏物語』にも「ひいな」遊びとして紙の人形で遊ぶ様子が描かれており、時代をくだって江戸時代には、現実の世界を反映して、さまざまな髪の結い方をした人形が作られた。

その作り手は、遊び相手が欲しい幼い娘を持つ母親や祖母、姉など、家庭の女性が担っていたが、近代以降は商品として作る人も現れ、和紙など地元の素材を用い、遊ぶだけでなく飾るための人形も土産物として市場に出回るようになった。

なお、言葉の意味では、「姉様」とは若い女性を指しているが、江戸時代の女性は、身分やライフステージによって、さまざまな髪形に変化するため、時代考証に応じて、既婚の女性、高齢の女性の髪形の人形も作られている。

武藤江戸姉様(一部)

【鳥取の姉様】

姉様は地域によってさまざまな名前が付いており、山陰では「ばんばさん」「ばんばさま」などと呼ばれていた。かつて山陰では、厠(お手洗い)にきびがらの人形を置くと、髪が豊かに美しくなるとされ、女性がこぞって人形を作りそなえる風習があったという。鳥取を代表する姉様には「きびがら姉様」という日本髪の頭部だけを造形した人形があった。明治時代に栗谷町で駄菓子屋を営んでいた女性が、とうきび(トウモロコシ)でつくった菓子を出しており、大量に捨てられる皮で何かできないかと考え、生み出されたものである。

当時からとっとりのきびがら姉様として玩具の愛好家には知られていたが、いったんは廃絶する。戦後に郷土玩具工房「柳屋」初代、田中達之助の妻、利子を含め、複数の作り手が復刻し、紙や絞りの華やかな飾り付けを施して販売していた。

なお、今回の展示期間中に、倉吉市の布子谷(ぬのこだに)で「きみがら人形」という立ち姿の姉様を作られる舩木一子氏から新作の寄贈を受けた。当館で所蔵している数十年前の作品と並べてみたところ、新作に比べて退色の経年感があるものの、髪形から身体部分の形状の劣化はなく、トウモロコシの皮の丈夫さが実感として伝わった。

鳥取の姉様(一部)

残念ながら、千代紙を製造、販売する店舗は減少傾向にあり、「麻の葉」などの一般的な柄はまだしも、展示資料の中には入手できなくなった柄がいくつもある、との現状を亘氏から伺った。

【参考文献・Webサイト】

『うつくしいなつかしい姉様』亘正幸著　亥辰舎　2020年
『いつまでもつたえたい姉様』亘正幸著　亥辰舎　2023年
『姉様』伊藤睦郎著　日本郷土人形研究会　平成8年
「日本各地の姉様」 姉様人形　高森春恵　https://konomezuki.com/anesama/4kakuchi.html　2025年3月20日閲覧

(文責　長嶺泉子)